
あなたの歌姫

桜空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたの歌姫

【コード】

N7488M

【作者名】

桜空

【あらすじ】

『嘘…だろ?』

目の前にいるのは歌って踊れる電子世界の歌姫さん…?

第1楽章初めまして マスター

第1楽章 初めまして マスター

『ちわ〜！黒猫便です！判子お願いします』

決まりきった営業文句が、部屋の中へと響き渡った。時計は22時を指している。まったく人が気持ちよく寝てるこんな時間に…

『えつと印鑑…印鑑つと』

寝ぼけ眼で印鑑を探し、おもむろに玄関へ向かって歩く。

ガチャと玄関開けた先にいたのは一人の宅配便の兄ちゃんと…背丈が160cmくらいあるダンボール。なんか精密機器って書いてあるんですが…

『俺、こんなの頼んだ覚え無いんですけど…』

『え〜でも桐生幸弘さんに間違いないですよね』

間違いない…俺の名前だ

でも頼んだ覚えはほんとに無い。てか160cm程度の大きさのダンボールでどうなのさ？それも精密機器で一体…

『まあなにはともあれ印鑑はお返しします。ありがとございまして！』

呆然と立ち尽くす俺の手からいつの間にとったのか印鑑を押してそのそうと去っていく宅配便の兄ちゃん。

『まあ…中に入れるか』

持ち上げようとしたら意外とずっしりとした重量感が腕に伝わってくる。と言うよりは本当に重い。少しずつ慎重に運び入れて、差出人名を探すも載ってない。

『まったく…かつたりい何が入ってるってんだよ』

カッターでダンボールのテープを慎重に切って、中身を見る。なにやら緩衝材替わりのビニールキャップの上に通の手紙があった。内容は要約するところという事らしい…

『ビニールキャップに包まれている中身の厳正なる抽選の結果俺が当たりプレゼント』

ふざけんな…そんなものに応募なんてしたことねえよ！手紙をグシヤグシヤと丸めてゴミ箱に投げるも入らなかった。

『何が入ってたんだよ…』

緩衝材を一つ一つ丁寧に外しているとぷにゅとした人肌のような感触が手に伝わった。

『！！？』

突然の感触だったから言葉にならなかった。少々驚きながらも全ての緩衝材を外し終えて出て来たのはエメラルドグリーン髪の毛を

した女の子だった。

『まさか…えっ…でも』

見覚えはある…けどPCで見ただけだ…歌って踊れる電子世界での言わばアイドルがまるで眠るかのようにダンボールの中にいた。

『は…初音…ミク…だよなこれってやっぱり』

取り扱い説明書っぽいものにもVocaloid 初音ミク って書かれてるし…でも4年前俺がまだ高坊だった頃の話だぜ？

『起動…させてみるか』

左耳の裏側についたUSBポートをPCと繋ぎ合わせて初期設定を済ませていく。やがて呼び方を入力してくださいの文字が画面上に現れる。

『かつたるいしマスターでいいかな』

設定も終了して起動スイッチに俺は手をかけた。ぶんっと言う音と同時に軽い駆動音が聞こえて、ミクの目に生気が宿る。

『初めましてマスター。初音ミクと言います』

機械的な自己紹介をする彼女…説明書にはかなり感情豊かと書いてあったんだが…どっかで間違えたか…？

『アイコンタクトし、マスターの認識作業に入ります。私の目を見

ていてください』

そうミクに指示され、俺はミクの目を見る。アイコンタクトって…
ほんとにロボットじゃねえかよ…

『アイコンタクト終了しました…これからよろしくお願いしますね
マスター』

アイコンタクトが終わった途端にミクに感情が出て来たらしくニコ
っと笑顔を作ってくれた。そして不意をつかれた俺は一気に顔が赤
面した。

『あ…あのマスター？』

返事が無い俺を不安に思ったのかミクは顔を見上げる。

『うう…ひっく…』

やがてミクの目に涙が溜まっていき泣き声で俺は我に返った。だっ
て…あまりに可愛かったもんでつい…

『やっごめんミク。だから泣かないで』

『だってマスターが私の事無視するんですもん』

涙で目を潤ませたミクもこれまた可愛い。

あれ？俺ってオタク気質持ってたんだ…そんな事を考えてるうちに
また程よく眠気が襲ってきた…ミクの設定やらなんやらでもう時計
は深夜1時を指している。

『ごめん…ミク。明日きちんとしてあげるから今日は寝かせてくれ…』

ふわぁっと欠伸をひとつ漏らし布団に戻ろうとした時だ。

『あっ…あの！マスター』

『ん…なに…？』

『私の分の布団と…それから出来ればパジャマをお貸し頂けないですか』

別に布団なんて来客用のが一組ある…てか友人が来た時に買わされたのが一組あるからまあいいんだけど…

『このままだとお洋服にシワが入っちゃいますし、表面素材に痕がついちゃいますので』

オタオタと説明を続けるミクを見てると普通の女の子を見る感じだった。

『布団はあるからいいけど…パジャマは俺のしかないから少し大きいだろっけどいい？』

『はい！大丈夫です』

布団を敷いてあげてまだ卸したばかりのパジャマをミクに渡してあげる。

『着替えるのであっち向いててください』

こんなところまで普通の女の子と一緒に。やがて衣擦れの音が聞こえてくるとミクの一糸纏わぬ姿が浮いては消え浮いては消え…まあ普通の男の反応だよな

『もう大丈夫ですよ』

さてと寝ますか…正直今日はほんとに眠い…

『んじゃ電気消すよ〜おやすみミク』

『おやすみなさいマスター』

電気を消した後スースーと寝息を立てるミクとの明日からの生活についてと考えていた。

(まあ明日買い物に連れて行ってあげて色々と済みますか…)

そして俺も眠りについた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7488m/>

あなたの歌姫

2010年10月12日07時43分発行